

平成30年度 豊かなむらづくり全国表彰事業 東北ブロック受賞事例の概要

【東北農政局長賞】

えごまが繋ぐ農村の絆

受賞団体：色麻町えごま栽培推進協議会（宮城県色麻町）

◆むらづくりの背景・経緯

色麻町は、宮城県の北西部、県都仙台から北へ約40kmに位置し、西部は、奥羽山系に属する秀峰・船形山などが山岳地帯を形成しており、東部は沖積層からなる水田地帯である。

色麻町では、昔から冠婚葬祭の食事用や家庭料理用として「えごま」が栽培され、地域の伝統食品として代々受け継がれてきた。

しかし、戦後のライフスタイルの変化や過疎化も進み、伝統の継承が危惧されるようになった。また、農産物は、時代の変遷とともに「作れば売れるという姿勢」では立ちゆかなくなり、販売するための戦略が求められるようになった。そこで地域では、平成13年に地域の栽培農家25名により「色麻町えごま栽培推進協議会」を設立し、伝統食品「えごま」を用いた町おこしにより、文化の継承と農業振興に取り組むこととした。



栽培研修会

◆むらづくりの内容

○農業生産面

「えごま」は、栽培資料が乏しいため、協議会構成員が技術研鑽に励み、栽培マニュアルの作成ほか、機械化体系の確立や無農薬栽培を実現したことにより新規栽培者が増加し、全国有数の「えごま」の産地に成長した。

生産面だけではなく6次産業の取り組みとして広く活用され、菓子や焼酎、加工した食用油を販売し、農業収入の確保に努めているほか、畜産とも連携し、えごま配合飼料で育った鶏の卵や食用油の絞りかすを食べさせた豚肉など、新たな商品開発にも取り組んでいる。



えごまを使用した商品開発

○生活・環境整備面

女性や高齢者は、軽量で扱いやすい「えごま」の栽培に率先して取り組んでおり、「えごま」の栽培研修会や加工実習をきっかけとした地域内の交流は、女性や高齢者のコミュニティ活動の強化に貢献している。

協議会は、地域の小学校へ「色麻町生涯学習出前講座」と呼ばれる「えごま伝統食文化」の授業を10年前から行っているほか、子供たちが1年をかけて「えごま」を育てる栽培体験や収穫後の実食体験も行っているなど、食文化の継承に努めている。



子供たちと実食体験の様子